

も指摘。H14年4月7日から吐気あり、食事や水分をほとんど摂取せず、4月10日発熱と著しい倦怠感で救急外来を受診。Cre 3.99mg/dl Na 157mEq/l CRP 18.1mg/dl。血圧の低下、腎障害、炎症反応があり入院。意識レベルの低下あり昇圧薬と輸液を開始し、入院翌日、高尿素窒素血症はさらに増悪しUN 79.6, Cre 5.25mg/dlと上昇。輸液を増やし利尿薬を併用、更に高Na血症ではあるものの、副腎クリーゼとしてヒドロコルチゾンを使用し症状は改善。5月中旬、再び倦怠感と食欲低下、更に発熱と同様の症状が出現し、輸液とヒドロコルチゾンを使用し改善。

一日尿量 1680ml, Ccr 50.7ml/min, 蛋白尿は陰性、血糖も正常。血漿浸透圧は 298mosm/l と上昇しているにもかかわらず、尿浸透圧は 164mosm/l。血中 Na は 150mEq/l に対し、尿の Na は 28mEq/l。これらの状態で、ADH は 1.6pg/ml で相対的分泌低下。視床下部性尿崩症と考え、6月中旬から、デスマプレッシンを一日 5 μ g から開始し 7.5 μ g を維持量とし、高 Na 血症は改善し、その後同様の症状は再発していない。

て、酢酸は全身で代謝利用され易いという代謝面での優位性がある。今回、日研化学の輸液剤の共通した特徴であるアルカリ化剤としての酢酸 Na の有用性について紹介する。また、アセテート輸液シリーズとして今年発売された 5%ブドウ糖加アセテート維持液「ヴィーン 3G」についても紹介する。

2 催涙スプレーによる加害事故

進藤 弘

新潟市西消防署

近年の救急出動は複雑化する社会情勢に合わせるが如く多岐にわたっている。経験したことの無い救急事案が増えており、常に危機管理意識をもって活動しないと、予期せぬ事態に遭遇した場合、適切に対処できないばかりか、救急隊員も危険にさらされることになる。119番通報の内容と現場の状況が、異なることは決してまれではない。したがって、事故現場に最先着する可能性の高い救急隊の任務は大きなウエイトを占める。日頃から管内の情勢に精通するとともに、通報内容及び現場の評価が重要である。今回、新潟市の歓楽街古町で発生した防犯用スプレーによる加害事故について紹介し、救急活動における問題点を検証する。

第 44 回新潟救急医学会

日 時 平成 14 年 7 月 6 日 (土)
午後 1 時 30 分より
会 場 有壬記念館 2 階

I. 救急隊関連部門

1 アセテート輸液製剤の特徴と製品紹介

内田美千代

日研化学(株)学術部

現在、輸液剤に配合されているアルカリ化剤には、乳酸 Na と酢酸 Na がある。酢酸は、乳酸と比較して光学異性体がなく代謝が速いという利点を持つ。また、乳酸が肝で主に代謝されるのに対し

3 除細動例の報告

小倉 孝明・豊岡 正則・進藤 弘
伊川 章・佐藤 晋・石黒 信義

新潟市消防署

【目的】新潟市において、救急救命士によって実施された傷病者に対する除細動について、その現状と効果を明らかにする。

【対象と方法】1997年1月から2002年6月までに新潟市消防局の救急隊により心肺蘇生法を実施し搬送した傷病者1375名のうち、救急救命士が除細動を実施した98例について検討した。

【結果】救急救命士の増加とともに除細動の実施件数も増加し、除細動が実施できなかった事例は年々減少している。